

深浦会東京だより

第17号

深浦会東京 事務局
〒154-0011 東京都世田谷区上馬4-23-7
トボス・M. 駒沢102
TEL 03-3418-0914
FAX 03-3422-0483

10周年を迎え

東京の深浦まつり



黒滝 進 会長

会長 黒滝 進

会員の皆様には益々ご清栄のことと拝察申し上げます。

さて、まず当会この一年をご報告しておきます。六月の総会・交流会は、前号でお知らせのとおり、お陰様で例年の如く盛会でした。また、今年のちびっこ交流会は、冬休みに初めて深浦から子供達が上京し、実行されました。深浦の希望もあって、「都会の明暗」、殊に暗の部分の子供達に見て貰い、反面として「深浦の良さ」を体感させたいとの趣旨で実施されました。年末の喧騒の中、16名の小学六年生は、三日間元気に、楽しみと貴重な社会体験を積んで帰って行きました。

そしてこの二月、「深浦のお相撲さん」を励ます「会」の第一回総会・新年会が浅草で開かれました。当日は、海鵬、安美錦関が急用で出られませんが、

したが、安壮富士さんを囲んで和やかな会となりました。三力士は場所ごとに、テレビで「深浦町出身」と紹介され、郷土の誇りとして、いつも私達の郷里を愛する気持ちで満ちた塔として郷里にどれ程寄与しているかと思つと、励ましの前にその活躍に感謝の念が湧いてきます。今回は30名程の参加者でしたが、次回は激励の輪をもっと広げ、更なる躍進につなげられればと考えます。

ところが、当会は今年で10周年を迎えます。この間、会が盛況裡に回を重ねられたのは、深浦からの積極的な支援と、会員皆様の心温まる支えがあつたことでした。私達、会を預かる者としては、故郷をもつ者がひとしく抱く望郷の念を、どうすればふるさと会に結びつけられるかと、腐心し努力してきました。会報をコミュニケーションの手段として、「深浦まつり」にアイデンティティを求めるなど、そ

れらがうまく機能し総体として成果を収めてきたと考えています。今後も深浦人の楽しみのため、深浦との架け橋のため、郷里の豊かな発展を願う集まりとして、役員一同力を合せ、会の運営に当たって参りたいと思つています。ところで、今年には会発

足10年の節目に当たつたため、それを記念して特別な事業を計画しています。①今後深浦への寄付、寄進についてです。私達が故郷を離れるまでに、ふるさとから受けた恩恵は、計り知れないものがあります。そういう私達の意識の中には、いつか、何らかの形で故郷に報いる機会があればと考えている方が多いのです。事実これまで、深浦を思う篤志家が沢山いたことを知っています。しかし、当会が推進しようとしているのは、①個人々人では中々できない思いを、当会10年の節目を機縁として問いかける。②誰もが気軽に参加できる内容とする(例えば、一口千円の寄付)。③使途は奨学金などが候補として上がっていますが、深浦の要望を聞いて決める。④広範な賛同を得て、更に深浦とのつながりを強めたい。というものです。具体的には総会を別途に決定し、秋には集約し実行に移したいと考えています。さて、4月13日土曜日は、今年の総会・交流会

活力と魅力ある郷土を目指して



平沢敬義 深浦町長

深浦町長 平沢敬義

慶び申し上げます。昨年は、アメリカ同時多発テロという無差別かつ非常に非人道的な事件がありました。被害に遭われた数多くの方々、ご家族、関係者の皆様方に、この場をお借りして心よりお見舞い申し上げます。また、このテロ事件はいよいよ光が見え始めたアメリカ経済を鈍化させ、さらには世界経済に影響を与え、不況にあえぐ日本もいまだその出口が見えない問題です。

深浦会東京成立10周年、誠にめでたうございませう。設立当初は、会員数およそ一〇〇名でスタートしましたが、いまやその数一六〇〇名弱と、ここまで隆盛に導かれた役員の方々のご努力に心から敬意を表します。同時に、会員の皆様におかれましては、各分野において益々ご活躍のこととお

会員各位

お知らせ

「深浦会東京」第10回定期総会・交流会の開催について

深浦会東京
会長 黒滝 進

拝啓
初夏の候、皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃、当会の運営につきましてご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、第10回定期総会・交流会を下記のとおり開催いたします。深浦町からも町長をはじめと多数の方々に参加されますので、万障お繰り合わせのうえ、ご出席下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

- 日時 平成14年4月13日(土)午後1時より
- 場所 きゅりあん(品川区総合区民会館) 東京都品川区東大井5-18-1 ☎ 03(5479)4100
- 交通 JR京浜東北線大井町駅下車南口徒歩1分、東急大井町駅下車徒歩5分
- 会費 1人5,000円(年会費1,000円を含む) 同伴家族1名増すごとに3,000円加算。但し高校生以下は無料。
- 申込方法 同封の「はがき」に必要事項を記入し、3月25日までにご返送下さい。

※当日、ご出席できない方は年会費(1,000円)を別紙郵便振替払込書にてお振り込み下さい(平成13年度振込実績230名余)。なお、振込手数料は、当会にて負担いたします。

※「広報ふかうら」の継続購読、並びに新規購読をご希望される方は、別紙郵便振替払込書にて購読料(2,000円/年)をお振込み下さい。振込手数料は当会にて負担いたします。

※会場でのスナップ写真の撮影は致しませんので、写真撮られる方は、インスタントカメラ等をご持参下さい。

あなたに逢いたい!!

ふ 風光明媚な
か 観光名所
う うしろ髪ひく
ら 来客の



黒滝会長の挨拶



平沢町長を囲んでハイチーズ



藤田周次郎さんの民謡



モスクのみそ汁おいしいね



ササエの壺焼きナンゴウのともえ等故郷の料理に舌鼓



ふるさと物産展(ふるわかめ・モスクetc)

今年もまた、私達の「楽園地」深浦を満喫する交流会の季節がやって参りました。深浦のグルメと人情をたっぷり味わいながら楽しいひとときを過ごしましょう。(昨年の総会・交流会より)

「ちびっこ交流会」に同行して

「深浦会東京」監事 角谷勇二郎

昨年12月下旬クリスマスで賑わう東京に[深浦会東京と深浦町]の交流事業である「ちびっこ交流会」で初めて、ふるさと深浦町の子供達16名を東京にお迎えし、お手伝いさせて頂きました。日ごろお世話になっているふるさとの皆様、に少しでもお役に立てれば、との思いでした。年末の特にいそがしい時期と重なり、深浦会東京で、世話をしてくださる東京の皆様、仕事をやりくりしてもらいサポートスタッフもどうか揃いました。

平成13年12月24日深浦をたち、五所川原から夜行バスで出発、よく25日朝、東京浜松町に到着、当日は、午前中休憩し、東京育ちのちびっこ達と合流、総勢21名のチームとなりました。午後から小平市の下水道施設見学、26日は、開園して間もないディズニーシーの見学でした。そして27日は東京大田市場の見学、東京タワーに登り、東京江戸博物館を訪問し歴史の勉強、当日午後10時のバスで帰郷という強行日程でした。子供達の健康が心配されましたが、無事終了することが出来ました。初めての東京訪問の子が多く、今の深浦の子供達の関心がどんなものか、お迎えする私達も興味津々でした。大きなバッグの中にセカンドバッグを忍ばせ、お出かけは、身軽になって、オシャレを楽しむ海外旅行風スタイルには驚きました。今回は、両親、学校の先生なしの旅行で町の企画課の方針により子供達の自主性の尊重、飲み物や食べ物などは各自で好きなものを選び注文



する。電車の乗車券の買い方、自動改札の通り方、乗り降りのルール等、各自で責任を持って団体行動する教育には最適な交流会であったと思います。深浦では体験できないことを一つ一つの実践を通して身をもって体験することにより、子供達も自信を持ったことと思います。どこに行くにも電車、バス移動で歩きました。足に豆を作りながらも我慢して歩きました。食事でメニューの中からどれにするか決まらず、友達と相談しながら、選んだこと、ホテルでの宿泊では、ドアが閉まってしまう部屋の中に入れてしまったこと、シャワーで水浸しになってしまったこと、お土産を買い、フロント担当から箱

をもらい自分で梱包し、自宅宛宅配便で住所記入し、発送手続きが出来たこと、など頼もしい姿でした。1200万人の人が住む東京は大きすぎて、すぐに理解するには無理なことですが大勢の人がいるだけに競争も激しく、楽しむこといっぱいあり、勉強する施設もあり、そして危険なことたくさんあります。小学6年生、見るもの聞くもの即、吸収する大事な時期です。明日を担う大切な人材だけにやさしく、そして厳しく、深浦の標語である、町民みんなが先生のもとにタバコや有害図書の自販機が屋外から撤去されても一向に困らない立派な人材に育てていただきたいと心から願っております。深浦の子供達からお礼の手紙をたくさん頂きました。有難うございました。

◆連載◆

深浦の歴史 ⑥

深浦町文化財審議委員 森山嘉蔵
 今甦える中世戦国の深浦

5. 大浦氏の津軽支配と深浦諸相

①大浦氏警石の津軽支配

南部宗家とされる三戸南部氏の津軽一帯への侵攻。そして、大浦城周辺への圧迫が年々強化されて来ている永正・天文年代であったが、二代領主で大浦城主の盛信は、領内の治政が極めて宜しく、土地の豪族・領民各層の信望を集めていた。一説には、盛信の所領は此の時すでに、田畑併せて三千八百町歩ともされておられ、多少の外庄には雇うの要が無かったのである。

盛信治政三十六年の後を受けた三代政信は、戦国の豪將で、三戸南部氏が津軽惣郡代として派遣した南部高信の威をかさに、無法な振舞いの多い、和徳城主小山内満春と和徳川原で合戦し、両將は討死した。

豪將の後の四代為則は持病もちなので、遠出や

②(津軽郡中名字)の中の深浦

室町幕府が一大勢力に分れて争った応仁の乱(一四六七)によって、全国に群雄が割拠した戦国後期の天文年間(一五三三〜一五五四)に、津軽浪岡御所の北畠氏が調べたという、当時の地理詩が残っている。鼻和郡・平賀郡・田舎郡・奥法郡・入間郡・有馬郡・外ヶ浜の栄えていた村邑が書かれている。鼻和郡内の西海岸の村邑は次のように書かれている。

鯨ヶ沢・浮太刀・猛房(今湯舟)・赤石・立里・西船関・下り磯・風合・追良瀬・トドロ木浜・飛浪途・浪車・吹浦(今深浦)・貞内・横浜・金河の十七村邑である。

合戦は、実弟の基三郎守信が名代となつて居た。この守信は、天文中期の頃には赤石城(現日照田集落丘陵)主となつて、西浜一帯の圧えをしていた。この天文十九年に生れた嫡男が、後に四代為則の養子になり、やがて大浦城治政九十年の余徳を背景にして戦野を駆け、津軽統一を果して津軽氏を名乗り、初代弘前藩主となつた為信である。

「浪車」は不詳、貞内は笹内で今の岩崎、横濱は横磯、金河は月屋と推量している。現在有るその他の村々については不明となっている。

③安藤尋季、深浦森山館に季定を討つ

蝦夷ヶ島松前氏の史書とされている「新羅之記録」に、天文十五年(一五四六)春、出羽国河北郡深浦森山城々主、飛騨守季定が謀反に及んだので、秋田檜山屋形の安東尋季が軍勢と援軍の蝦夷ヶ島の蠣崎季広勢が城を攻略して、反逆の季定を自害せしめた。と記録されている。

これからすれば、十六世紀中葉では、旧深浦地域までは出羽国河北郡と称されていたことが解る。この季定の謀反の内容は不明なのだが、一説には、この期の大浦城主は四代為則で、赤石城には弟の守信が城主として西浜を圧えていた。この大浦勢力が深浦森山城主の季定に及んだのではなからうか、と史考されているとか。

河北郡とは八郎瀧に流れる馬場之目川より北方を云う。また森山城は今の岩崎村森山集落の場所である。そして檜山屋形は能代市の檜山のことである。

事務局からです

1. 年会費の納入のお願い
 総会・交流会に参加できない方は、同封の郵便振替用紙にて、平成14年度分の年会費1,000円のお振込みをお願い致します。昨年度は、230名の方からお振り込みを頂いております。振込手数料はございません(当会負担)。
2. 「広報ふかうら」購読申し込みご希望の方へ
 深浦町で毎月発行しており、ふるさとの情報がいっぱい会員に好評です。購読希望の方は同封の郵便振替にて、年間購読料2,000円をお振込みください。振込手数料はございません。(当会負担)
3. 投稿のお願い
 「広報ふかうら」「深浦会東京だより」への投稿を募集しております。内容は一切問いません。活字数…600字位(写真貼付も)。事務局迄ご連絡ください。投稿者には、テレホンカード(深浦の風景)を贈呈いたします。
4. 住所変更、姓名が変わった方は忘れずに事務局迄ご連絡ください。
5. 名簿提出のお願い
 同期会、同窓会等の名簿を事務局迄お願いします。
6. 会報への「広告」を募集しています。
 ご希望の方は事務局迄ご連絡ください。(1口1万円より)

第1回『深浦のお相撲さんを励ます会』総会・新年会を開催



参加者全員で記念撮影



阿壮富士さんの相撲甚句

『深浦のお相撲さんを励ます会』会長 久慈 諭吉

2月2日懸案の『会』の新年会を兼ねた年次総会を浅草ビューホテルで開催したところ、32名の皆様にご参加頂きました。お忙しい中遠路からのご出席誠に有難う御座いました。この紙面を借りて御礼申し上げます。当日 海鵬、安美錦の両関取は一門会等の日程と重なり、残念ながらご出席頂けませんで、安壮富士さん一人のご来賓となりました。安美錦関はご出席こそ出来ませんでした、[サイン入り手形]の色紙を安壮富士さんに出席の人数分を托して下さいましたので、安壮富士さんから参加者一人一人に手渡してもらいました。参加者は安壮富士さんと握手しながら色紙を受け取り、写真を取合いながら大喜びでした。盛り上がったところで、安壮富士さんの美声を皮切りにカラオケ大会へと移り、安壮富士さんの相撲甚句で最高潮に達しました。最後に全員で記念撮影をして、無事終了致しました。初場所安美錦関は9勝6敗の好成績を上げました。残念なことに海鵬関は5勝10敗、安壮富士さんは1勝6敗と振るいませんでした。来場所の巻き返しに期待して、皆で応援していきたいと思っております。昨年の『会』の活動としては、年6回、場所ごとの番付表と大相撲カレンダーの配布、昨年初場所千秋楽後の安治川部屋打上げパーティ参加のご案内を行いました。現在会員数は41名です。会員相互の親睦をはかり、ますます楽しい会にしていきたいと思っております。皆さん『深浦のお相撲さんを励ます会』に入会して一緒に応援しませんか。入会要領は下記のとおりです。4月13日開催の『深浦会東京』の総会・交流会で入会の受付を致しますので宜しくお願い致します。

記

1. 入会金 なし
2. 年会費 5,000円(激励会費用は別)
3. 活動 番付表の配布(年六回)
 大相撲カレンダーの配布
 激励会の開催(年1回参加費は12000円前後)
 海鵬関、安美錦関の手形色紙の配布
 (十両以上の関取にならないと色紙を作れない)

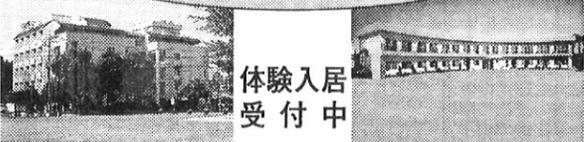
訪問看護

訪問介護

ケアプラン作成

家事サービス

介護付高齢者向住宅
有料老人ホーム



ゆらり 悠楽里えどがわ

ゆらり 悠楽里つるかわ

お問合せ フリーダイヤル 0120-147-294

管理・運営 ライフサポート株式会社

社長 西崎修治(船作出身)

〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-14-5 新宿F2ビル6F

Tel: 03-5358-5133 Fax: 03-5358-5134

ホームページ <http://www.lifesupport.co.jp>

